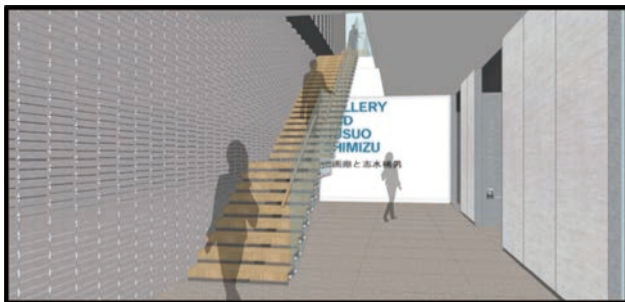


低層部における魅力づくり アートの学術の面に光を当てた、 文化・歴史・緑の融合ゾーンへとつながるアプローチの整備

今回のKeMCo計画においては、大学の博物館として、その下支えする部分に光を当てる、垣間見ることができる空間を設け、来館者が学術活動に対して理解・興味を持っていただける空間を前面に出した計画とします。展示室へのつながるルートは演出性を高め上階への期待感を持たせるとともに、そのルート上に、研究成果などを展示できるスペースや、収蔵室の様子、収蔵品の研究、修復作業などが垣間見える場所を点在させます。



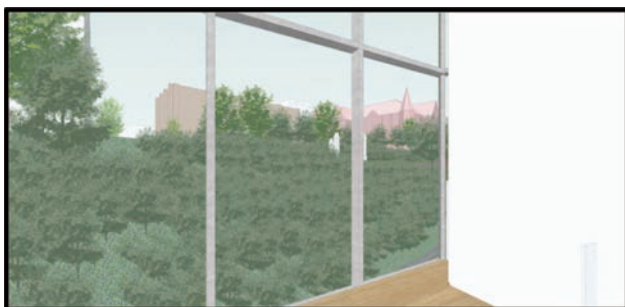
1. ART WALL・エントランスホール

研究成果や作品を展示する壁をエントランスから展示室のある3階まで連続して設けます。階段は上ってみたいと思わせる意匠性高いものとし、上層階への期待を高めるとともに、エントランスホールを演出します。



2. 2F収蔵庫前室

前室の壁面をガラススクリーンにすることにより内部の研究活動や補修作業などを垣間見せ理解や興味を持ってもらうための場所として計画します。合わせて紫外線防止対策など、美術品に影響を及ぼさないための対策を施します。



3. 意匠階段・踊り場

キャンパス側の壁面をガラスカーテンウォールとし、透明感を高めることで、視角による変化を楽しめるとともに、踊り場から、キャンパス側の図書館旧館や塾監局の歴史的建物がのぞめ、キャンパスとつながりを演出する場所として計画します。



4. 展示室・テラス

キャンパス側に向いて屋上テラスを設けることで展示室からも図書館旧館と塾監局を一望できるように計画します。テラスは、利用者が休憩やリフレッシュのできる場所として使い、ウェルネスを意識した計画となっています。